

わたしたちの '生きた建築'発見プログラム



大阪市では、生きた建築ミュージアム事業の取組みの一環として、より身近な建築やまちへの興味・関心を高めていただくことをめざして、「わたしたちの“生きた建築”発見プログラム」を開催しました。

このプログラムでは、まちあるきで建築の魅力のとらえ方を学び、それぞれの視点で、それぞれの「生きた建築」を見つけ、その魅力の発表をしていただきました。各々がとらえた視点や感じた魅力について、講師を交えて意見交換し、参加者全員で建築やまちの魅力を共感・共有しました。



日程 まちあるき調査:
2021年12月19日(日)
発表会:
2022年1月15日(土)

エリア クラシカレッジ[港区築港2]
を中心とした築港エリア

人数 5名
(市内居住・通勤・通学の方)

プログラム	
まちあるき	14:00~14:15 自己紹介 レクチャー
	14:15~15:15 まちあるき
	15:15~15:30 今後の進め方
発表会	14:00~14:45 発表
	14:45~15:15 ディスカッション
	15:15~15:30 講評

今回のプログラムで皆さんが調査し、皆で魅力を共感した'生きた建築'

1. デザインの視点

タイルの建物

・赤レンガ建築を想起させる赤いタイルの外観が特徴的。
・交差点に面して5つの出入り口があり、お店を出して賑わいがあった当時を窺い知ることができる。



天保山第三コーポ

・壁面の青いタイルが特徴的。同じ色ではなく、何色かが混じって綺麗。
・隣のビルと共同建築で建てられており、一つの建物だけどガラッと外観が変わっている。



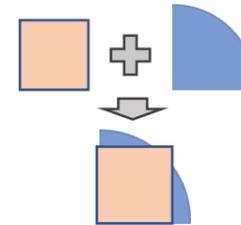
コインランドリー

・重厚長大な建築が目立つ築港エリアにおいて異彩を放つ“かわいい建築”
・傾斜が急な赤い三角屋根が特徴的。童話の中に出て来そう。



マンション

・扇形に四角形が「貫入」しているデザインが、幾何学的で美しい。



日本海事検定 大阪第一事務所

・四角いビルに規則的に並ぶ窓で合理的にデザインされている。
・細部に注目すると、飛び出ている箱や、階段下の車高スレスレの車庫など、遊び心もありつつ、全体的にすっきりとしておしゃれ。



2. 建物の歴史の視点

大阪港港湾合同庁舎

・耐震工事をしたが見た目は大きく変えていない。
・大正時代や昭和期の変遷を見ると、いずれもカーブした外観や、横長の窓などなど、全方位を見張っているというイメージを継承していることが分かる。
・独特の用途をもつ建築が、それに適したデザインを引き継いでいるという発見があった。



3. ストーリー性の視点

天保山剛健ブラザーズ(天保山第1~5コーポ)

・築港エリアに点在するマンション群を兄弟に例えた。長身で重厚感たっぷりの長男、兄の後ろで見守る次女、おしゃれなタイルに身を包む三男、長男と口の字で繋がりが手と手を取り合う四男。これぞ末っ子という高いスペックを持つ五男。強くてたくましい港の兄弟たち。



参加された皆さまの発見力に驚かされました。おかげで、新しいこのプログラムが「生きた建築ミュージアム事業」の原点に直結していることに気づかされました。というのも、文化財や観光資源といった枠組みではなく、いま目の前に存在しているものを見直して、時には使い変え、暮らしの豊かさを大きくしていこうというところに、本事業の特色があるからです。当地を良く知る方の知見と、そこに興味を寄せる外の目を化合させるこのプログラムは、エリアからのポトムアップを通じて、本事業をますます前進させるものです。
大阪公立大学教授/建築史家 倉方 俊輔 氏



まちあるきをするには非常に厳しい季節での開催でしたが(笑)、とても楽しかったです。特に参加された皆さんの観察眼の解像度の高さ、そしてプレゼン能力には驚きました。歴史、形態分析、タイルの魅力、そして街に暮らすことでみえてくることなど、建築を楽しむ視点が皆さん本当に様々で、それがそのまま建築の魅力の多様性を示していて、大成功の初回になりました。
近畿大学准教授/建築家 高岡 伸一 氏